

教育相談課だより No.20

非常時に思う 日本人の国民性

東日本大震災から10年が過ぎました。メディアでは、震災に関する特集が組まれていましたが、ネットニュースで日本人の行動についての記事を見つけました。「大震災から10年 中国人が今も感動している、日本人が自然に取った『ある行

動』」（中島 恵）では、いくつかのインタビューが紹介されていました。

- ・「長い間、列に並んで、やっとパンを1個もらえるという厳しい状況なのに、自分のことは我慢して、ほかの人に食料を分け、貴重な毛布まで渡してしまう。あの見事な自己犠牲の精神は、震災を経験しなければ日本に住んでいても気がつかなかったことでしょう。」
- ・「出勤の時も、退勤の時も、階段の端に並んで、階段を行き来する人のために道をあけていることに、とても驚きました。駅員さんとか、誰かに指示されたわけではないでしょう？日本人は自然に取っている行動だったんでしょうけれども、あのきちんとした、そして静かな行列を見て、『あんなこと中国人にできる日が来るのだろうか』と感心したものでした。」

このように、日本人の冷静な行動に中国の方は驚いたようでした。また、略奪行為も比較的少なく、諸外国では考えられないと言われていました。そもそも自動販売機が、これだけあちこちにある国自体が珍しく、野菜等の無人販売所すらよく見かける国は、そうそうないのかもしれない。こうしたことが成り立つのは、長い時間をかけて培われてきた日本人の国民性によるところが大きいのでしょう。

ベネッセ教育総合研究所では、日本・中国・インドネシア・フィンランドの4カ国の保護者を対象に「幼児期の家庭教育国際調査」を実施し、その結果を公表しています。この中で「対象のお子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。」という項目では、日本で一番多かったのは、「自分の考えをしっかり持つ人」という回答でしたが、他の4カ国は、圧倒的に「自分の家族を大切にする人」という回答でした。さらに面白いのは、「他人に迷惑をかけない人」という回答が日本では4番目に多かったのに対し、他の3カ国は非常に少ない結果だったと言うことです。もちろんこの結果に善し悪しはありませんが、こうした国民性が非常時に生かされたのだと思います。

学校では、例えば給食の配膳で、みんな平等に配膳することを児童生徒は指導されます。たとえどこかのクラスで食缶をひっくり返したとしても、校内放送で呼びかければ、たちまちにどのクラスからも給食が集まってきて、結果として一番多く配膳できることは、よくあることです。非常時にこそ、国民性が試されているように感じるとともに、改めて教育の力は、素晴らしいものだと感じています。

